

# 令和2年度 学校自己評価システムシート ( 県立小川高等学校 全日制課程 )

目指す学校像	伝統校としての自覚を持ち、学習に重きを置き、行事や部活動等に主体的にチャレンジする生徒を育成する。
--------	---

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 確かな学力の育成に向け、ICT等を活用した学習及び授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組む態度や自律的に学習を行う習慣を育み、生徒一人一人に応じたキャリア教育を実践する。</li> <li>2 豊かな心と健やかな体の育成のために「学校の新しい生活様式」を踏まえ、自身と他者の心と体を大切にするとともに、校内の施設・設備や生徒自身の持ち物を大切に扱う態度や習慣を育む。</li> <li>3 「おがわ学」の開発・実践やPTA活動、学校説明会等を通じて、地域や保護者との連携・協働を行い、社会に開かれた教育課程の実現を目指し、魅力ある学校づくりを推進する。</li> </ol>
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価			
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
学 校 関 係 者 評 価								
実施日 平成 年 月 日								
学校関係者からの意見・要望・評価等								
1	<p>【現状】 生徒は落ち着いて授業に取り組んでいるが、意欲的に参加している生徒は少ない。また、家庭学習時間は平日平均31.7分、休日平均36.2分と非常に少ない。生徒の進路先は、大学、短大、専門学校、就職と多様である。 ・昨年度生徒アンケート「授業へ意欲的に、真面目に参加している」それぞれ9.5%、56.3% ・昨年度生徒アンケート「授業満足度」67.5% ・昨年度大学・短大進学率40.4%</p> <p>【課題】 ICT等を活用した不断の授業改善を行い、生徒が主体的に学習に取り組み、自律的に学習を行う環境づくりを行い、それらを経験させていくことが課題である。また、生徒自身が自らの在り方・生き方を模索していく中で、地域や社会の課題を把握し、それらを自分事として捉えていくことで、円滑なトランジション(移行)へとつなげていくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員の授業改善と生徒の授業への取組状況の改善</li> <li>2 生徒の家庭学習時間の増加</li> <li>3 3年間を見通した進路指導計画の下、継続的・組織的な進路指導の実施</li> <li>4 大学進学希望者に対する指導の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員による不断の授業改善と、外部研修等に参加するとともに、校内での公開授業・授業研究を開催する。(年2~3回)</li> <li>2 生徒へ日々の授業の予習・復習や週末課題等を課すことで家庭学習時間の増加を目指す。(通年)</li> <li>3 学年や段階を踏まえた各種進路行事を実施する。(通年)</li> <li>4 進研模試等の校内実施、ICTを活用した夏期補講の実施、進学選抜クラス委員会との連携等。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職員向けアンケート及び生徒向けアンケート結果(授業への「意欲的な参加」15%以上、「真面目に参加」65%以上)</li> <li>2 スタディーサポートの学習状況調査及び生徒向けアンケート結果(平日休日ともに1時間以上)</li> <li>3 生徒の多様な進路希望に対応した検査・調査やガイダンス等が行えたか</li> <li>4 進研模試結果等の推移、夏期補講等の実施状況、スタディーサブリの運営状況等</li> </ol>				
2	<p>【現状】 大半の生徒は真面目に高校生活を送っている。スマートフォン等を利用した際の情報モラルや情報リテラシーの向上を目指している。 学校行事等への取組の中で、リーダーシップやフォロワーシップを発揮させ、生徒が主体的・自律的に行動できるよう支援している。</p> <p>【課題】 スマートフォン等の適切な使用については課題がある。「学校の新しい生活様式」を習慣化することや、校内の施設・設備の使用状況、生徒自身の持ち物の管理等にも課題がある。 課外活動等を中心として、生徒の自主的・自律的な活動をより推進していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自他を尊重する社会性の育成</li> <li>2 スマートフォン等を使用する際の規範意識の向上</li> <li>3 「学校の新しい生活様式」の定着</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活委員会を中心となり定期的に規律やルールの遵守について呼びかける。(通年)</li> <li>2 生徒指導部、学年団、教科担当者等が協力し、日常的な啓蒙と指導を行うとともに、外部講師による講演会等により意識付けを図る。</li> <li>3 保健環境部、生徒指導部、特活部、教務部が中心となり、「学校の新しい生活様式」の習慣化に向けた取組を学校全体で行うとともに、中止された学校行事の代替を模索し、実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒向けアンケート結果(「規則遵守」95%以上、「挨拶」90%以上)</li> <li>2 スマートフォン等によるインターネットトラブル0件</li> <li>3 生徒の「学校の新しい生活様式」を実践している生徒の割合 学校行事の代替実施後のアンケートにおける生徒の満足度</li> </ol>				
3	<p>【現状】 新型コロナウイルス感染防止のための臨時休業により、「おがわ学」の開発・実践やPTA活動、学校説明会等は大幅な計画の見直しを迫られている。</p> <p>【課題】 新型コロナウイルス感染拡大を防止しながら、「おがわ学」の開発・実践やPTA活動、学校説明会等を中止にすることなく、いかに実施し、本校の魅力を外部へ発信していくことが課題である。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 感染防止を踏まえた「おがわ学」の開発・実践と探究的な学びの実現</li> <li>2 感染防止を踏まえたPTA活動・行事の見直し・改善</li> <li>3 ICTを活用した学校説明会の実施と内容の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「おがわ学」の開発・実践の見直しを行い、ICT等を活用することで、テキストづくりや研究発表会を実施する。</li> <li>2 PTA活動の見直しを行い、PTA行事を精選する。</li> <li>3 学校説明会の実施方法について、オンライン、オフラインの双方での実施を検討し、希望や状況に応じた参加ができるようにする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育課程内における「おがわ学」の実践数、テキストづくり、研究発表会の実施の有無</li> <li>2 通常のPTA活動に代わる実施方法の検討の有無、PTA行事を精選できたか</li> <li>3 オンラインでの学校説明会の実施回数</li> </ol>				